消費の地理学序説

関口 武・木崎昭子

大野義輝(1961)によれば、わが国における主要生活用品の世帯当り購入高には季節変化を示すものが多く、それは主として気象の影響であると論じている。このような問題を取扱う基礎資料としては総理府統計局消費統計課の手で、全国主要都市勤労者世帯の家計調査の結果をまとめた家計調査年報および月刊の家計調査報告が刊行されている。約200種の商品についての集計を地理の立場からそれら商品の性質・季節変化を検討しその分布をも調べた。方法論的な疑点なしとしないがその要点を略報したい。

各種商品の消費高について、その季節変化を検討すると下記ようになる。 I) 季節変化のないもの II) 季節変化のあるもの IIA:ボーナス型(3・6・12月にピーク) IIB:ボーナス型以外の季節変化 IIB-夏型 IIB2-冬型 IIB3-春秋型

米・パンなどの主食には季節変化はない。一方、電気冷蔵庫・たんす・洋服など高価で耐久性のある品物はボーナス型になっている。漁期のきまったもの、収穫期のきまったものに季節変化のあるのは当然で、これは需要に対する気候の影響とは言いがたいので除外すると、

夏型——ビール・ジュース・外用薬・殺虫剤・木綿地・化粧石けん・傘類

冬型——清酒・化粧クリーム・光熱費

春秋型——絹地・毛糸などが数えられる。これらは1955~62年の年の季節変化を検討して分類した結果である。これは夏型のビールも最近では冬にも飲まれるようになり欧米なみに、季節変化がなくなりつつあるといわれているからである。しかし、これら商品の消費の季節変化と気候との関係を説明する機構は明らかでない。

なお、これ等の統計は全国28都市別に集計されている。もし、夏型の商品が高温という気候の影響によるとすれば、その商品の地理的分布は南方型で、冬型の商品は北方に消費が多くてしかるべきであろう。このような予想の下に、上記商品の分布を検討してみた。結果は必ずしも簡単ではなかった。夏型のビール・ジュース・化粧石けん・木綿地などは各都市の消費水準の高低、あるいは地域的特性を示す傾向が強く、等値線を引くのに困難であった。外用薬・殺虫剤・傘類については一応地域的特性を示す分布の等値線は引けたが、必ずしも南方型ではなく、他方冬型の商品の消費量も一概に北方型とは言えず、気候の影響を最も顕著に示すはずの光熱費の分布も複雑であった。何故であろうか。各種商品の単なる消費絶対量・その季節変化の検討のみでなく、それぞれの商品に対する各地方の人人の関心度・嗜好・慣習などの地理的検討も必要であろう。

大野義輝(1961):商業気象 応用気象学大系 2 (工業気象) 221~266

Geography of Commodity Consumption in Japan

Takeshi SEKIGUTI and Akiko KIZAKI

Annual and monthly statistics of average family expenditures for principal commodities in 28 cities in Japan various in size have been published regularly by the Bureau of Statistics. Based on these statistics (1955-62), seasonally changing patterns of family expenditures for about 200 commodities have been checked and classified into the following groups:

- I) Non-seasonal commodities—staple foods etc.
- II) Seasonal commodities
 - A) Bonus-month type—expensive & durable commodities, such as electric refrigerator, tailored suits, furnitures etc.
 - B) Non-bonus month type
 - BI-Summer type: beer, external application, insecticide, toilet soap, cotton cloth, umbrella etc.
 - B2-Winter type: sake, toilet cream, fuel & light
 - B3-Spring & Autumn type: silk for kimono, wollen yarn.

Distribution maps of annual consumptions of typical summer-type commodities and those of winter-type ones were prepared, but their patterns were not simple and might need detailed geographical analyses.